

第31号

1971-6-17

毎週木曜日、4:30-6:30
水曜の水曜頭で配付

入管問題通信

入管問題通信編集委員会
連絡先 294-1551(内344)
千代田区神田錦町2-2
東京電機大学一部務員会
カントン! 駐在163183

返還協定調印式の永続的沖縄戦争を貫徹せよ!

本日は「沖縄返還協定調印」を糾弾する集会に結集された全でのみなさん! 中部地区において入管体制解体の闘いを展開している入管問題通信編集委員会より若干提起していきたいと思ひます。本日、東京とワシントンにおいて宇宙中継という鳴物入りで「沖縄返還協定」が調印される。我々はこの日米帝国主義による琉球処分と糾弾するとともに、永続的な沖縄戦争を闇う決意を明らかにしたい。

我々は沖縄戦争を語るとき、少なむとも日本帝百年的「史の中」と一貫して行なわれてきた沖縄人民に対する抑圧・差別の「史と現在的沖縄人民の闘い」提起とともに沖縄デーの時や「返還協定」調印時にみに沖縄を思い出すという、今までの新旧左翼の両立方を根底から打ち破らねばならぬ。

東京タワーで一人決起した富村さんから銳く突きつけられたところの、沖縄人民は日本人であり、そこからきてくる沖縄返還あるいは沖縄奪還の犯罪性のものや明らかである。まさに沖縄→日本という歴史的関係ではなく、明確にアジアを射程に入れたそのとして沖縄はどうえられなければならない。沖縄人民は明治の併合以来、一貫して沖縄の自立に向けた闘

りを行なつて来た。我々は教育の中でのことを一切欠落させた「史を教えるされ、本土を向とてモリウベキ潮流の存在しか知りえなかつた。コザにおける人民騒起が明確に反米・反日・反基地の闘いであり、富村さんの「日本人は沖縄のことにより口を出すは!」と云うつきつけの中で、我々は憲法違反の「史の一端を知つた。

沖縄の「史の中」、大阪万博覽会で「沖縄人」が見せ物にされるという差別暴挙があつた。また法的には「本土との一体化しながらされた誤だが、その後の擁取はすさまじく「ソテツ地獄」といわれる飢餓状態のソテツしか食めるものではなく、ソテツの毒で多くの人が死んでしまつた)にみられてしまった。その結果「沖縄戦」に悲劇に至ったとおりだったのである。

さういった「史性をふまえてこの「返還協定」は調印されるのだろうか? きっと否である。

前文にみ立て、この「協定」は1969年11月の「日米共同声明」の基礎の上にないことが書かれている。明確に「協定」はあるのだ。その中で我々は日本帝のアシド侵略という路線の下に、この「協定」はあるのだ。その中で我々は日本本土に敵視してきていた沖縄人民が日本人と大幅な賃金格差があり、差別、抑圧されてしまうという事実を知つた。そういう日常的な差別、抑圧の中に沖縄人民を放置して

（モロコシカラタケ）

街頭におかの「威圧的

な手段をやつても沖縄闘争をやめた

「」にせぬらむこと口明らかであ

る。入管闘争の由来、在日中国人、

朝鮮人、未解放部落民、沖縄人民、

下層アロレタリアートという最も抑

圧された諸階級の人達と我々がいかに
に國保していとかが向われていて
だといつ處を我々の訴えとして全て
のみなさん」に提起しておきたい。

また、富村さんへの決起に対して日
帝の裁判所は單なる暴力事件＝氣狂
いの犯行として群つたれりと、早
速詰問調査している。やや日本帝が
沖縄を「難民遣送」問題が問題であると
裁く（）とかられていたといつ」と
を解説にして、大衆的な情宣活動を行
なつてニキだ。

全ての紹介されたみなさんへ

例え「沖縄返還要求」が語呂され
たとしても沖縄回帰は終つかことい
うがまことに、眞摯に再確認しようと
うだねむいか。

へ地区」における沖縄人民との連帯を！
富村さん裁判に勝利しよう！

不斷の沖縄闘争の展開を！

入管法粉碎！入管体制解体！

7・1佐藤訪「韓」科弾！